

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ブンキョウケン 学校法人 文京学園								
フリガナ大学の名称	ブンキョウガクインダイガク 文京学院大学 (Bunkyo Gakuin University)								
大学本部の位置	東京都文京区向丘1丁目19番1号								
大学の目的	本学は、「自立と共生」の建学の精神に則り、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、社会の発展に寄与するところ豊かな人間の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	建学の精神である「自立と共生」に基づいて、人間の存在と生命の尊厳を深く理解した豊かな人間性と高い倫理観、他者を理解するためのコミュニケーション能力を備えた優れた看護専門職者の育成を目指す。また人々の健康回復、保持・増進に寄与できる看護実践能力を身につけ、チーム医療の中で自らの専門性を発揮して、グローバルな視点から健康問題を捉え、国内外の多様な職種の人々と連携・協働できる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健医療技術学部 [Faculty of Health Science Technology] 看護学科 [Department of Nursing] (保健師選択制20人)	4	100	-	400	学士 (看護学)	平成26年4月 第1年次	(1年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (2~4年次) 東京都文京区向丘 1丁目19番1号	
	計		100	-	400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	収容定員増認可申請 (平成25年3月提出) 保健医療技術学部 看護学科 [定員増] (100)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健医療技術学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	125単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	任員
			教授	准教授	講師	助教	計		
	新設分	保健医療技術学部 看護学科	7 (5)	6 (6)	0 (0)	13 (11)	26 (22)	3 (3)	10 (6)
		計	7 (5)	6 (6)	0 (0)	13 (11)	26 (22)	3 (3)	10 (6)
	既設分	保健医療技術学部 理学療法学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	8 (8)	34 (34)
		作業療法学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	4 (4)	24 (24)
		臨床検査学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	6 (6)	62 (62)
		人間学部 コミュニケーション社会学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	30 (30)
		児童発達学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	28 (28)
		人間福祉学科	5 (5)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	2 (2)	31 (31)
心理学科		8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	1 (1)	30 (30)	

教員組織の概要	既設分	経営学部 経営学科	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	70 (70)	
		外国語学部 英語コミュニケーション学科	15 (15)	10 (10)	0 (0)	4 (4)	29 (29)	0 (0)	102 (102)	
		計	80 (80)	39 (39)	0 (0)	19 (19)	138 (138)	21 (21)	389 (389)	
	合計	87 (85)	45 (45)	0 (0)	32 (30)	164 (160)	24 (24)	392 (389)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		116 (116)	人	73 (73)	人	189 (189)	人		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		116 (116)		73 (73)		189 (189)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	70,766.42㎡	0㎡	0㎡		70,766.42㎡				
	運 動 場 用 地	32,417.57㎡	0㎡	0㎡		32,417.57㎡				
	小 計	103,183.99㎡	0㎡	0㎡		103,183.99㎡				
	そ の 他	11,466.25㎡	0㎡	0㎡		11,466.25㎡				
	合 計	114,650.24㎡	0㎡	0㎡		114,650.24㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
		61,412.16㎡ (61,412.16㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)		61,412.16㎡ (61,412.16㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	81室	22室	50室	13室 (補助職員 0人)	4室 (補助職員 人0)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数			助教については複数人で1研究室(20㎡以上/1人)を使用する教員あり。			
		保健医療技術学部看護学科		23 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	保健医療技術学部看護学科	2,516 [730] (2,216 [700])	43 [12] (43 [12])	2,500 [2,500] (2,500 [2,500])	83 (53)	319 (319)	39 (39)			
	計	2,516 [730] (2,216 [700])	43 [12] (43 [12])	2,500 [2,500] (2,500 [2,500])	83 (53)	319 (319)	39 (39)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		4,018㎡	545		420,000					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,204.32㎡	テニスコート3面		フットサルコート1面					
経 費 の 見 積 び 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 届出学科全体
		教員1人当り研究費等		500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	- 千円	- 千円	
		共同研究費等		1,400 千円	2,000 千円	2,800 千円	2,800 千円	- 千円	- 千円	
		図書購入費	23,000 千円	5,200 千円	5,200 千円	5,200 千円	5,200 千円	- 千円	- 千円	
	設備購入費	205,000 千円	5,000 千円	10,000 千円	15,000 千円	20,000 千円	- 千円	- 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,898千円	1,602千円	1,608千円	1,594千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							

大学等の名称	文京学院大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学員定年次人	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
保健医療技術学部	理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.07 1.07	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
	作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.06	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
	臨床検査学科	4	80	-	320	学士(臨床検査)	1.07	平成18年度	(1年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
									(2~4年次) 東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
人間学部	コミュニケーション社会学科	4	60	-	240	学士(人間学)	1.07 1.13	平成15年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	<心理学科> 平成25年4月 収容定員の増加に 係る学則の変更
	児童発達学科	4	130	-	520	学士(教育学)	1.04	平成15年度		
	人間福祉学科	4	110	-	440	学士(社会福祉)	1.03	平成15年度		
	心理学科	4	100	-	355	学士(心理学)	1.11	平成15年度		
経営学部	経営学科	4	235	-	880	学士(経営学)	1.22 1.22	平成3年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	平成25年4月 収容定員の増加に 係る学則の変更
										【入学定員】 (旧) 215 (新) 235 (+20)
外国語学部	英語コミュニケーション学科	4	240	-	868	学士(コミュニケーション)	1.16 1.16	平成13年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	平成25年4月 収容定員の増加に 係る学則の変更
										【入学定員】 (旧) 200 (新) 240 (+40) 【編入学定員】 3年次 (旧) 28 (新) 0 (-28)
大学院	保健医療科学研究科 保健医療科学専攻	2	20	-	40	修士(保健医療科学)	1.05 1.05	平成22年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
	人間学研究科 人間学専攻	2	10	-	20	修士(人間学)	0.55 0.15	平成11年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
	心理学専攻	2	20	-	40	修士(心理学)	0.75	平成13年度		
	経営学研究科 経営学専攻	2	30	-	60	修士(経営学)	0.69 0.69	平成9年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
	外国語学研究科 英語コミュニケーション専攻	2	10	-	20	修士(英語コミュニケーション)	0.35 0.35	平成17年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	文京学院短期大学								※平成25年度より文京学院短期大学については学生募集停止
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	文京学院短期大学 英語キャリア科	年	人	年次 ¹	人	短期大学士(英語学)	倍	昭和39年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
附属施設の概要	該当なし									

学校法人文京学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事 由	
文京学院大学					文京学院大学					
外国語学部	英語コミュニケーション学科	240	-	960	→	外国語学部	英語コミュニケーション学科	240	-	960
経営学部	経営学科	235	-	940		経営学部	経営学科	235	-	940
人間学部	心理学科	100	-	400		人間学部	心理学科	100	-	400
	児童発達学科	130	-	520		児童発達学科	130	-	520	
	コミュニケーション社会学科	60	-	240		コミュニケーション社会学科	60	-	240	
	人間福祉学科	110	-	440		人間福祉学科	110	-	440	
保健医療技術学部	理学療法学科	80	-	320		保健医療技術学部	理学療法学科	80	-	320
	作業療法学科	40	-	160		作業療法学科	40	-	160	
	臨床検査学科	80	-	320		臨床検査学科	80	-	320	
	計	1075	-	4300						
文京学院大学大学院					文京学院大学大学院					
外国語学研究科	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	→	外国語学研究科	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20
経営学研究科	経営学専攻(M)	30	-	60		経営学研究科	経営学専攻(M)	30	-	60
人間学研究科	人間学専攻(M)	10	-	20		人間学研究科	人間学専攻(M)	10	-	20
	心理学専攻(M)	20	-	40		心理学専攻(M)	20	-	40	
保健医療科学研究科	保健医療科学専攻(M)	20	-	40		保健医療科学研究科	保健医療科学専攻(M)	20	-	40
	計	90	-	180			計	90	-	180
文京学院短期大学					文京学院短期大学					
英語キャリア科		0	-	120	→	英語キャリア科		0	-	0
※平成25年度より学生募集停止										
	計	0	-	120			計	0	-	0
										※収容定員増認可申請 (平成25年3月提出予定)
						計	1175	-	4700	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要															
(保健医療技術学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	大学特別科目	人間共生論	1前	2			○								兼任2 オムニバス
		新・文明の旅特講 a	1・2・3前		2		○								兼任2 オムニバス
		新・文明の旅特講 b	1・2・3後		2		○								兼任2 オムニバス
		新・文明の旅総合講義	1・2・3・4前		2		○								兼任2 オムニバス
		地球環境論 I	1前		2		○								兼任1
		地球環境論 II	1後		2		○								兼任1
	人間と生活・社会の理解および科学的思考の基盤	心理学概論	1前	2			○								兼任1
		人間関係論	1後	2			○								兼任1
		生命科学(生命倫理)	1後	2			○								兼任1
		哲学	1前		2		○								兼任2
		法学	1前		2		○								兼任1
		医療心理学	3前		2		○								兼任1
		医療経済学	1後	2			○								兼任1
		保健体育学	1前		2		○								兼任1
		保健体育学実習	1前		1				○						兼任1
		国語表現論	1前	1					○						兼任1
		英語 I	1前	1					○						兼任1
		英語 II	1後	1					○						兼任1
		医療英語演習 I	2前	1					○						兼任1
		医療英語演習 II	3前		1				○						兼任1
	物理学	1前		2			○							兼任1	
	生物学	1前	2				○							兼任1	
	化学	1前		2			○							兼任1	
	数学	1前		2			○							兼任1	
	統計学(保健統計学含む)	1後	2				○							兼任1 ※演習	
	学部共通留学期間関係科目	海外異文化理解・研究 I	2・3・4前		4				○						兼任1
		海外セメスター語学研修 I	2・3・4前		4				○						兼任1
		海外異文化理解・研究 II	2・3・4前		4				○						兼任1
		海外セメスター語学研修 II	2・3・4前		4				○						兼任1
		海外語学(英語)研修 I	2・3・4前		2				○						兼任1
海外語学(英語)研修 II		2・3・4前		2				○						兼任1	
海外語学(該当英語外)研修 I		2・3・4前		2				○						兼任1	
海外語学(該当英語外)研修 II		2・3・4前		2				○						兼任1	
海外語学(中国語)研修 I		2・3・4前		2				○						兼任1	
海外語学(中国語)研修 II		2・3・4前		2				○						兼任1	
小計(35科目)	—	18	54	0		—							兼任13 兼任4	—	
専門基礎分野	および心身の発達と健康	人体の構造と機能 I(解剖・生理学)	1前	3			○							兼任2 オムニバス	※演習
		人体の構造と機能 II(解剖・生理学)	1後	3			○							兼任2 オムニバス	※演習
		生化学	1前	2			○								兼任1
		栄養学	1後	1			○								兼任1
		運動学	1後	1			○								兼任1
		人間の発達と健康 I(母胎期～青年期)	1後	2			○				3	4			オムニバス
		人間の発達と健康 II(成人期～老年期)	2前	2			○				2	2		1	オムニバス
	疾病の成り立ちと健康回復の促進	病理学	2前	2			○								兼任1
		微生物学	1前	2			○								兼任1
		生体防御学	1後	1			○								兼任1
		薬理学	2前	2			○								兼任1
		病態治療学 I	2前	2			○				1				兼任2 オムニバス
	健康の保持・増進と社会	病態治療学 II	2後	2			○				1				兼任2 オムニバス
		臨床検査学	2前	2			○								兼任1
		公衆衛生学	2前	1			○								兼任1
		保健医療福祉行政論	2後	2			○								兼任1
		疫学	2前	2			○								兼任1
	小計(20科目)	社会保障論	2後		2		○								兼任1
		社会福祉論	2前		2		○								兼任1
		医療安全学	2後	2			○								兼任1
小計		—	34	4	0		—			5	4		1	兼任10 兼任5	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
専門分野	看護の基本	看護学概論	1前	2			○			1										
		看護コミュニケーション論	1前	1				○					2						オムニバス	
		看護展開論	1後	1				○					2						オムニバス	
		看護倫理学	2後	2				○		1										
		アセスメントと看護技術Ⅰ(日常生活支援援助)	1後	2					○	1			3	1						
		アセスメントと看護技術Ⅱ(治療過程支援援助)	2前	2					○	1			3	1						
		アセスメントと看護技術Ⅲ(療養生活支援援助)	2後	2					○	1			3	1						
		アセスメントと看護技術Ⅳ(健康の保持・増進援助)	3前	1				○		1	1								オムニバス	
		地域看護論	2後	2				○			1									オムニバス
		健康教育論	2後	1					○	1	1									オムニバス
	基礎看護学実習Ⅰ(地域における生活者の理解)	1後	1						○	1			3	1						
	基礎看護学実習Ⅱ(対象理解)	2前	1						○	1			7	2						
	基礎看護学実習Ⅲ(日常生活援助)	2後	2						○	1			8	1						
	看護実践の基盤	急性期看護論	2後	3				○				2	2	1					オムニバス	※演習
		慢性期看護論	2後	3				○		1	2		2	1					オムニバス	※演習
		終末期看護論	3前	2				○		1	2		2						オムニバス	
		救急救命看護論	3前		1			○					1							
		家族看護論	2前	2				○		3	3								オムニバス	
		在宅看護論	3前	2				○		1			3						オムニバス	
		外来看護論	3前	1				○		1	2		2						オムニバス	
		母性看護学	2後	3				○		1	1		2						オムニバス	※演習
		小児看護学	3前	3				○		1	1		2						オムニバス	※演習
		精神看護学	3前	3				○		1	1		1						オムニバス	※演習
		老年看護学	3前	3				○		1			3						オムニバス	※演習
		公衆衛生看護学概論	3前	2				○			1				1					※演習
		公衆衛生看護活動論	4前		2			○			1				1					※演習
	公衆衛生看護管理論	4後		2			○			1				1					※演習	
	看護の実践	成人看護学実習Ⅰ(クリティカル)	3後	2					○	1	2		2	1						
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	2					○	1	2		2	1						
		老年看護学実習	4前	3					○	1			3							
		外来看護学実習	4前	1					○	1	2		2	1						
		母性看護学実習	3後	2					○	1	1		2							
		小児看護学実習	3後	2					○	1	1		2							
		精神看護学実習	3後	2					○	1	1		1							
		公衆衛生看護学実習	4前		4				○		1				1					
		産業保健看護学実習	4前		1				○		1				1					
	看護の統合	看護研究概論	2前	1				○		1										
		看護管理学	4前	2				○		6	6		13	3					兼任1	
		チーム医療論Ⅰ	4後	1				○		6	6		13	3					オムニバス	
		チーム医療論Ⅱ	4後	1				○		6	6		13	3					オムニバス	
		国際看護学	4後	1				○											兼任1	
		災害看護学	4後		2			○		1										
		統合実習	4通	4					○	6	6		13	3						
		アドバンス実習	4後	1					○	6	6		13	3						
小計(44科目)		—	72	12	0		—	6	6		13	3					兼任0 兼任2	—	—	
合計(99科目)			—	124	70	0		—	7	6		13	3					兼任20 兼任10	—	—
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学												
卒業要件及び履修方法							授業期間等													
基礎分野科目、基礎専門分野科目、専門分野科目の中から必修を含め、125単位以上修得すること。							1学年の学期区分			2期										
							1学期の授業期間			15週										
							1時限の授業時間			90分										

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																	
(保健医療技術学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎分野	人間と生活・社会の理解および科学的思考の基盤	新・文明の旅特講 a	2・3前	2			○								兼任2	オムニバス	
		新・文明の旅特講 b	2・3後	2			○								兼任2	オムニバス	
		新・文明の旅総合講義	2・3・4前	2			○								兼任2	オムニバス	
	学部共通留学期間関係科目	医療心理学	3前		2			○								兼任1	
		医療英語演習 I	2前	1					○							兼任1	
		医療英語演習 II	3前		1				○							兼任1	
		海外異文化理解・研究 I	2・3・4前		4						○					兼任1	
		海外セメスター語学研修 I	2・3・4前		4						○					兼任1	
		海外異文化理解・研究 II	2・3・4前		4						○					兼任1	
		海外セメスター語学研修 II	2・3・4前		4						○					兼任1	
		海外語学(英語)研修 I	2・3・4前		2						○					兼任1	
		海外語学(英語)研修 II	2・3・4前		2						○					兼任1	
	海外語学(該当英語外)研修 I	2・3・4前		2						○					兼任1		
	海外語学(該当英語外)研修 II	2・3・4前		2						○					兼任1		
	海外語学(中国語)研修 I	2・3・4前		2						○					兼任1		
	海外語学(中国語)研修 II	2・3・4前		2						○					兼任1		
小計(16科目)		—	1	37	0									兼任4	—	—	
専門基礎分野	および心身の発達と機能	人間の発達と健康 II (成人期～老年期)	2前	2				○			2	2		1			オムニバス
		病理学	2前	2				○								兼任1	
	疾病の成り立ちと健康回復の促進	薬理学	2前	2				○								兼任1	
		病態治療学 I	2前	2				○			1				兼任2	オムニバス	※演習
		病態治療学 II	2後	2				○			1				兼任2	オムニバス	※演習
		臨床検査学	2前	2				○							兼任1		
	健康の保持・増進と社会保障	公衆衛生学	2前	1				○								兼任1	
		保健医療福祉行政論	2後	2				○								兼任1	
		疫学	2前	2				○								兼任1	
		社会保障論	2後	2	2			○								兼任1	
社会福祉論	2前	2	2			○								兼任1			
医療安全学	2後	2				○								兼任1			
小計(12科目)		—	19	4	0					3	2		1	兼任5	—	—	
専門分野	看護の基本	看護倫理学	2後	2				○			1						
		アセスメントと看護技術 I (日常生活支援援助)	1後	2					○		1			3	1		
		アセスメントと看護技術 II (治療過程支援援助)	2前	2					○		1			3	1		
		アセスメントと看護技術 III (療養生活支援援助)	2後	2					○		1			3	1		
		アセスメントと看護技術 IV (健康の保持・増進援助)	3前	1					○		1	1					オムニバス
		地域看護論	2後	2					○			1					オムニバス
		健康教育論	2後	1					○		1	1					
		基礎看護学実習 II (対象理解)	2前	1							1			7	2		
基礎看護学実習 III (日常生活援助)	2後	2							1			8	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護実践の基盤	急性期看護論	2後	3			○				2		2	1		オムニバス	※演習
	慢性期看護論	2後	3			○			1	2		2	1		オムニバス	※演習
	終末期看護論	3前	2			○			1	2		2			オムニバス	
	救急救命看護論	3前		1		○						1				
	家族看護論	2前	2			○			3	3					オムニバス	
	在宅看護論	3前	2			○			1			3			オムニバス	
	外来看護論	3前	1			○			1	2		2			オムニバス	
	母性看護学	2後	3			○			1	1		2			オムニバス	※演習
	小児看護学	3前	3			○			1	1		2			オムニバス	※演習
	精神看護学	3前	3			○			1	1		1			オムニバス	※演習
	老年看護学	3前	3			○			1			3			オムニバス	※演習
	公衆衛生看護学概論	3前	2			○				1			1			※演習
	公衆衛生看護活動論	4前		2		○				1			1			※演習
公衆衛生看護管理論	4後		2		○				1							
看護の実践	成人看護学実習Ⅰ(クリティカル)	3後	2					○	1	2		2	1			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	2					○	1	2		2	1			
	老年看護学実習	4前	3					○	1			3				
	外来看護学実習	4前	1					○	1	2		2	1			
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1		2				
	小児看護学実習	3後	2					○	1	1		2				
	精神看護学実習	3後	2					○	1	1		1				
	公衆衛生看護学実習	4前		4				○		1			1			
産業保健看護学実習	4前		1				○		1			1				
看護の統合	看護研究概論	2前	1			○			1							
	看護管理学	4前	2			○									兼任1	
	チーム医療論Ⅰ	4後	1			○			6	6		13	3		オムニバス	
	チーム医療論Ⅱ	4後	1				○		6	6		13	3		オムニバス	
	国際看護学	4後	1			○									兼任1	
	災害看護学	4後		2		○			1							
	統合実習	4通	4					○	6	6		13	3			
アドバンス実習	4後	1					○	6	6		13	3				
小計(40科目)	—	67	12	0	—	—	—	6	6		13	3	兼任0 兼任2	—	—	
合計(68科目)		—	87	53	0	—	—	—	7	6		13	3	兼任8 兼任6	—	—
学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野				保健衛生学										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基礎分野科目、基礎専門分野科目、専門分野科目の中から必修を含め、125単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(保健医療技術学部看護学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎分野	大学特別科目	人間共生論	1前	2			○								兼任2	オムニバス		
		新・文明の旅特講 a	1前		2			○							兼任2	オムニバス		
		新・文明の旅特講 b	1後		2			○							兼任2	オムニバス		
		新・文明の旅総合講義	1前		2			○							兼任2	オムニバス		
		地球環境論 I	1前		2			○							兼任1			
		地球環境論 II	1後		2			○							兼任1			
	人間と生活・社会の理解および科学的思考の基礎	心理学概論	1前	2				○								兼任1		
		人間関係論	1後	2				○								兼任1		
		生命科学（生命倫理）	1後	2				○								兼任1		
		哲学	1前		2			○								兼任2		
		法学	1前		2			○								兼任1		
		医療経済学	1後	2				○								兼任1		
		保健体育学	1前		2			○								兼任1		
		保健体育学実習	1前		1					○						兼任1		
		国語表現論	1前	1						○						兼任1		
		英語 I	1前	1						○						兼任1		
		英語 II	1後	1						○						兼任1		
		物理学	1前		2			○								兼任1		
		生物学	1前	2				○								兼任1		
		化学	1前		2			○								兼任1		
	数学	1前		2			○								兼任1			
	統計学（保健統計学含む）	1後	2				○								兼任1		※演習	
学部共通留学期間係科目																		
小計（22科目）		—	17	23	0		—							兼任12 兼任4	—	—		
専門基礎分野	および心身の発達	人体の構造と機能 I（解剖・生理学）	1前	3			○								兼任2	オムニバス	※演習	
		人体の構造と機能 II（解剖・生理学）	1後	3			○								兼任2	オムニバス	※演習	
		生化学	1前	2				○							兼任1			
		栄養学	1後	1				○							兼任1			
		運動学	1後	1				○							兼任1			
		人間の発達と健康 I（母胎期～青年期）	1後	2				○			3	4				オムニバス		
	疾病の成り立ちと健康回復の促進	微生物学	1前	2				○							兼任1			
		生体防御学	1後	1				○							兼任1			
	健康の保持・増進と社会																	
	小計（8科目）		—	15	0	0		—		3	4			兼任6 兼任1	—	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門分野	看護の基本	1前 1前 1後 1後	2 1 1 1			○				1						1 2 2 3	1	— オムニバス
	看護実践の基盤																	
	看護の実践																	
	看護の統合																	
小計（4科目）		—	5	0	0	—			1						3	1	兼担0 兼任0	— —
合計（34科目）		—	37	23	0	—			4	4					3	1	兼担17 兼任5	— —
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
基礎分野科目、基礎専門分野科目、専門分野科目の中から必修を含め、125単位以上修得すること。								1学年の学期区分					2期					
								1学期の授業期間					15週					
								1時限の授業時間					90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療技術学部看護学科等)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人間と生活・社会の理解および科学的思考の基盤	人間共生論	人間は太古の昔以来、「独り立ち」することを「大切なこと」として今日まで生きてきた。独り立ちした個人、家族、集団、国家。このことはこれからの21世紀においても変わることなく、「大切なこと」として求め続けられていくことであろう。しかし人間は本来、「共に生きる」存在である。人間は太古の昔以来、人々と「共に生きる」こと、自然と「共に生きる」ことによってはじめて「独り立ち」することも可能であったのである。しかるに人間は「独り立ち」することの魅力に目がくらみ、自らが「共に生きる」存在であることを忘れてしまった。この人間の自らの存在の忘却が、「人間と自然」、「人と人」との関わりの問題など、現代社会の根本的な諸問題を生み出す根源となった。これらの今日的な焦眉の課題を根本的に検討し、「独り立ち」という人類の永遠の願いを一人一人の人間が見事に成就するには、人間が本来「共に生きる」存在であることを改めて思い起こさなければならない。「共に生きる」ことを基盤に据えて「独り立ち」することを問い直しすること。これが21世紀に生きるわれわれの課題なのではなかろうか。「人間共生論」はこの様な問題意識のもとに展開されていく。	オムニバス方式
	新・文明の旅特講 a	ユーラシア地域の現況を学ぶ。地域研究の枠組を用いて、比較文化・異文化コミュニケーション・メディア研究・現地語学習などの要素を取り入れ、各訪問国を多様な視点で学び、より深い理解を得る。その学習・研究の中から、多様な情報を収集する技能を向上させる。海外に向かって自分・日本を発信出来るコミュニケーション力をつける。現地学生との交流から新たな、幅広い視点でものを考えられるようになる。	オムニバス方式
	新・文明の旅特講 b	特講 a を受講することにより得た知識を元に、訪問国・大学での交流を想定して、グループワークにて、訪問国・大学の知識をより深め、交流内容について検討する。	オムニバス方式
	新・文明の旅総合講義	この講義は全学共通科目である。基本的に両キャンパスを結ぶテレビ会議方式とする。新・文明の旅 (Road of Eurasian Civilizations)において、東欧3カ国を訪問した派遣学生と、東北被災地に派遣された被災地ボランティア学生が同プログラムでの学びを発信する。「この体験で何を身に付けたか？」を考察する。そこでは「発信力」を評価する。一年生を中心とした受講生は、その内容を伝承する。「このプログラムで身につけることをは何か?」「私ならこうしたい、こう伝えたい!」を考える。この受講結果が2年後の旅参加の際考慮される。そこでは「理解力・質問力」が評価される。最終的には受講者全員が「最終レポート」を提出する。	オムニバス方式
	地球環境論 I	私たちが直面している今日の環境問題は、地球温暖化、海洋汚染、生物種の減少など、空間的・時間的な広がりを持ち、私たち自身のみならず、地球や将来の世代のことも視野に入れて、その改善に取り組まなければならない重要な課題となっている。私たちの何気ない暮らしが地球環境を破壊し続けている認識と、そのメカニズムを正しく理解した上で、地球環境を守り、次世代に引き継いでいくための、経済社会システムやライフスタイルのあり方を検討する。将来、環境保全活動を展開する上での基礎的知識を習得する。	
	地球環境論 II	地球環境を破壊から救うためには、将来を担う若者の環境意識の向上、ならびにグローバルな行動展開力が必要である。そのために、前半部では自然界のメカニズムを正しく理解することを目的とし、後半部は、国際的な視野を兼ね備え活動的な若者を育成する目的で、国内外のNPO、NGO等で活躍する若者の現状を紹介するとともに、彼らが何を考え、そしてどのような活動を行っているのかを具体的に検証し、我々が今成すべき地球環境の保全のあり方を具体的に模索する。そして、地球環境をマクロな視点から眺め、そして、その対策を提言できる国際人を育成するための講義を展開していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	心理学概論	臨床、理学、作業等対人専門領域の専攻を旨とする学生の基礎教養となる心理学の概説である。心理学の歴史をはじめ、心理学各分野の基礎理論・代表的トピックおよび人間と心理学の関係について、全般的・総論的な理解を旨とする。	
	人間関係論	人は生まれつき、社会的な生き物である。客観的な判断をしようとするときでも自分に思いをはせるときでも、気づかないうちに他者は私たちに影響を与えている。一方、私たち自身も、意識的・無意識的に他者に特定の印象をもたれようとしたり、他者とうまくやっていたりししたりする。この講義では私たちのこうした社会的な性質を理解したうえで、具体的な人間関係がどのように営まれているか概説する。また、個々の人間関係を越えた集団が私たちの人間関係にどのような影響を与えているかについても概説する。(1)社会的生物としての人間、(2)人と世界を理解する、(3)個人と社会をつなぐ自己、(4)社会的影響、(5)様々な人間関係、(6)集団の心理	
	生命科学（生命倫理）	本講義では前半で、私たち人間自身を生物学的に知ることを目的として、特に保健医療技術学部の学生が、これからの世の中で活躍していく上で、有用と考えられる分野を精選して解説する。最近のトピックスを導入して、その背景から基礎までを解説する方向で展開していくことにしたい。後半は、古くからある多様な死生観を踏まえ、病者、家族も含めて、人工授精、体外受精、臓器移植や脳死、安楽死、尊厳死などの現状と倫理的課題を考える。障害者の尊厳についても触れる。生命と人格の尊厳に基づく愛、性、幸福、死の在り方を見つめ、自然環境を含めた生命あるすべてのものへの関心を高めていく。	
	哲学	現代はヘルシズム（健康至上主義）となっているが、人間とは「病む者」（ホモ・パティエンス）であり、人間は病気と共に生きている。生老病死の中から、とくに病気についてテーマを絞り、「病者への眼差し」「病者への排除・差別」「病者との共生」などについて学ぶ。また、文学作品を素材としながら、日本人の病気観や死生観についても取り上げ、「病の人間学」を哲学的に考察することができることを目標とする。	
	法学	「社会あるところ法あり」との法格言があるが、私たちの世界を動かしているものの一つに「法律」がある。したがって、法律を知ることが自身の身を守るために必要な知識であるといえることができる。本講義では、法とは何か、あるいは法の目的や種類などを見ながら、法学の全体像を理解することを目指す。	
	医療心理学	病気を抱えて生活する患者とその家族の心理を理解し、医療人として適切な支援が提供できることを目指す。授業では病気が患者とその家族に及ぼす心理的影響を慢性疾患やがん、精神疾患（認知症を含む）を抱える心理状態から学ぶ。さらに患者にとっての日常生活の制限や服薬の意味を心理的な側面から理解し、適切な支援を提供するための基盤を培う。	
	医療経済学	医療については、医療費増大や医療過誤などいろいろな問題がある。しかし、それを医療の世界のみで考えるのではなく、別の視点から眺めてみると、なぜこういうことが起きるのかという分析ができ、その問題点や解決策が見えてくることもある。そこで、本授業では医療に関する様々な問題点を「経済学」という視点から捉え、分析を加えながら新たな解決策等を思考することを目指す。	
	保健体育学	生涯スポーツの時代における体育・スポーツ活動の意義について理解し実践できる能力を養う。そのために、体育スポーツに関する科学的領域から行政・制度的領域まで幅広く学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	保健体育学実習	本実習の目標は、各種の運動を実践し、運動技能を高めるとともに体力の維持、向上を図り、かつ生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力を身につける。実習の内容は、1. バasketボール、2. バレーボール、3. ホッケー、4. ミニサッカーなどを実習する。	
	国語表現論	日本語(ことば)の遣われ方に関して、日本語の歴史や特徴をふまえながら具体的教材をもとに理解する。さらに現代語、古語、敬語などについて幅広く学び、正しい日本語を習得し、豊かな感性を磨きながら、論文やプレゼンテーションをはじめ適確な自己表現ができる力を培う。	
	英語 I	This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, review basic structures, and give students the tools to express themselves. Speaking, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students are encouraged to be active participants in their own learning process. 英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。基礎的な構文の復習、自己表現の手段としての英語学習を行う。コミュニケーションに重点をおいて、話す・聞く・読むスキルを練習する。学生の積極的な参加姿勢が期待される。	
	英語 II	This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, develop the ability to express opinions, review basic structures. Discussion, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students focus more on functions and language to help convey feelings and opinions. Students are encouraged to be active participants in their own learning process. 英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。意見を発表する能力を伸ばす、基礎的な構文の復習を行う。コミュニケーションに重点を置いて、ディスカッション・リスニング・リーディングスキルを練習する。特に機能的表現、感情や意見を伝えるための表現に焦点を合わせる。学生の積極的な参加姿勢が期待される。	
	医療英語演習 I	医学関連の英文を読むことを通じて英語力と医学に関する知識を養う。専門科目の文献を訳すことにより、英語とその専門科目の両方を学ぶことが出来る。数日前に宿題として渡された文献の訳を事前にレポートとして提出する方式で講義を行う。	
	医療英語演習 II	医学関連の英文を読むことを通じて英語力と医学に関する知識を養う。医療専門科目の文献を訳すことにより、英語とその医療専門分野の両方を学ぶことが出来る。数日前に宿題として渡された文献の訳を事前にレポートとして提出する方式で講義を行う。	
	物理学	医療の世界においても、治療に際して起きる現象あるいは治療的技術の多くの部分は科学的知識を基盤として成り立っている。本講義では応用できる物理学の知識を得ることと科学的な思考のための方法論を修得することを目標として講義を行う。	
	生物学	生物学は具体的な生命の科学であり、特に人に関わる医療・福祉職にとっては、専門基礎分野科目(解剖学・生理学・病理学など)を学ぶためにこの基礎科目を修得しておくことが大切である。本科目はこれまでに生物の履修経験のない学生についても考慮し、生物学の基礎知識を整理して、講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人間と生活・社会の理解および科学的思考の基盤	化学	化学の基礎事項は看護の専門科目を理解する上にも、また臨床医学の現場に出たときの業務にも直結する重要な事項である。中学校、高等学校で学んだ化学の知識を基に、医学の専門分野を理解するのに必要な化学知識を習得することを目的とする。以下に授業内容を示す。1)物質の構造では原子と分子、原子の構造。2)物質の状態では気体、液体、固体、溶液、コロイドについて。3)物質の変化では、化学変化、化学反応の種類、反応速度、化学平衡について。4)無機化学では元素の分類、非金属、金属の化学、配位化合物、原子核反応について。5)有機化学では有機化合物を構成する元素、構造、特性、有機化合物の官能基、生体の化学成分について。		
	数学	看護は角度を変えると患者情報を扱う分野ともいえる。したがって、日々のデータ整理や集計をはじめ、上司への研究報告、学会や論文発表においても数学的手法を用いることが多い。本講義では、単なる計算のための数学ではなく、将来、看護の職に就いたときに役に立つ、生きた数学の授業にしたいと考えている。したがって、大学の専門課程で学ぶような複雑な専門数学とは異なり、データ解析を念頭に入れた、統計学につながる講義内容を目指したい。たとえば、データの正規変換や線形化によく用いられる、指数・対数、回帰分析や線形判別分析に必要な行列、行列式、また、微分による最小二乗原理、定積分による正規分布の確率の計算などである。そのため、当然のことであるが基本的な計算の演習など、高校で学習した内容をベースに授業を進める予定である。		
	統計学（保健統計学含む）	看護活動や看護研究を行う上で、必要な統計知識の習得を目指し、統計学の主要概念、基礎理論、解析方法について学習する。また、統計手法を実際に活用できるようになるために医療現場で扱うデータを教材にして、科学的理論と手法に基づいた集計、検討、比較を行い、正確な判断ができるような力を習得する。	講義15時間 演習30時間	
基礎分野	学部共通留学関係科目	海外異文化理解・研究Ⅰ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究レポートを纏めることになる。	
		海外セメスター語学研修Ⅰ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究レポートを纏めることになる。	
		海外異文化理解・研究Ⅱ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究レポートを纏めることになる。	
		海外セメスター語学研修Ⅱ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究レポートを纏めることになる。	
		海外語学（英語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究レポートを纏めることになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人間と生活・社会の理解および科学的思考の基盤 学部共通留学関係科目	海外語学（英語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。	
		海外語学（該当英語外）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。	
		海外語学（該当英語外）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。	
		海外語学（中国語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。	
		海外語学（中国語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。	
専門基礎分野	人体の構造と機能および心身の発達	人体の構造と機能Ⅰ（解剖・生理学）	人体の構造に関しては、人体を系統別に分けて総論的な内容を中心に学習する。また発生学的な観点から人体の構造を学ぶ。神経解剖学の側面では、神経組織や脊髄・脳幹・小脳・大脳基底核・大脳皮質などに関して、脳と脊髄の血管系と共に概要を学習し、感覚系の神経回路と運動系の神経回路に関して理解を深める。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
		人体の構造と機能Ⅱ（解剖・生理学）	人体を構成する各器官の個々の機能を理解し、個体としての正常な生命活動がそれら機能の協調と統合のもとでとり行われていることを学ぶ。この生命活動の維持には、身体の内部環境を整える循環・呼吸・消化・排泄などの働き（植物機能）や、変化し続ける外部環境に対処するための神経・筋の働き（動物機能）があって支えていることをそれぞれの仕組みを通して学ぶ。また、臨床の現場に活かせる基本的な生理学的病態についても学ぶ。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
		生化学	生命すなわち生きている細胞や生き物に起こっている複雑な過程は、化学や物理の法則で説明することができる。この、生命活動を化学反応および遺伝情報の処理の側面から説明しようとする生命化学、生化学、分子生物学の基本を理解する。また、生命活動について栄養学や代謝的に理解し、健康や病気とのかかわりについて学ぶ。ただ物質名を覚えるだけでなく、その物質の果す役割を考えて、単純な構造の物質から、生命のダイナミックな営みが行われていることを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	人体の構造と機能および心身の発達	栄養学	栄養学は健康の維持増進、疾病の予防ならびに回復に重要な位置を占め、医療職にはNSTの一員として貢献することが求められている。各栄養素の主なはたらきと過不足による影響、発達段階に応じた推定エネルギー量の算出方法、推定必要量、推奨量、目安量、目標量がなぜ設定されているかを理解する。また、食事摂取が困難な状況での栄養管理、食事療法、身体機能の推進など、目的に応じた栄養素の効率的かつ適切な摂取方法を理解する。献立や処方内容、健康診査や検査値からの個別事例の栄養アセスメントと、具体的な栄養指導が行えるだけの知識を身につける。	
		運動学	生物学や物理学、さらには解剖学や生理学などの基本的知識に基づき、身体運動の基本事項について学ぶ。運動器に関する基本事項と機能解剖を理解すること、さらには解剖・生理学に関する知識と身体運動に関する事項を統合することが到達目標である。	
		人間の発達と健康Ⅰ (母胎期～青年期)	人間の発達に関する理論を学び、それぞれの理論における発達段階の区分の特徴を理解する。なかでもEriksonの心理・社会的発達段階とPiagetの発生的認知理論を中心に、各発達段階の特徴と特有の課題を学習する。「人間の発達と健康Ⅰ」では、主に出生前発達～出生、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期における発達の特徴と発達危機、各段階の発達に関する興味深い知見や学説、事例を用いた発達のな問題に関して学ぶ。	オムニバス方式 講義15時間 演習30時間
		人間の発達と健康Ⅱ (成人期～老年期)	「人間の発達と健康Ⅰ」に続き、成人前期、成人中期、成人後期、老年期における発達の特徴と発達危機、各段階の発達に関する興味深い知見や学説、事例を用いた発達のな問題に関して学ぶ。さらに各発達段階における問題や発達危機に対して必要とされる支援のあり方を心理学や社会学等の学問領域での理論を活用しながら習得する。	オムニバス方式 講義15時間 演習30時間
	疾病の成り立ちと健康回復の促進	病理学	病理学とは、病変の原因と病態すなわちその成り立ちを主として形態学的な面から追求する学問である。本講義では、疾患の様々な病態がいかなる原因や機序で発生するのか、また、どのような形態学的変化が現れるのかについて、組織・細胞レベルで包括的に理解・把握していく。	
		微生物学	最近、ウイルス、真菌などの微生物について、細胞の構造、代謝整理、遺伝や変異などの生物学的な特徴を学習する。また自然界には有用な微生物と有害な微生物があり、ヒトおよび環境において微生物が及ぼす影響を学び、がんせんしょうの原因となる各種病原微生物とこれに対する宿主の免疫応答機構を学習し、代表的な感染症に関する基礎的知識を習得する。	
		生体防御学	生体防御のメカニズム、生体に有害な作用をもたらす過程と結果、ワクチン接種時の免疫の働き、臓器移植時における免疫の作用、自己免疫の仕組み、エイズなどの免疫不全の病態などについて学習する。	
		薬理学	疾患には、急性のものから慢性のものまで様々ある。それらを治療するためには適切な薬物療法が施行される。本講義では、薬療法に使用される各種の薬物の作用機序や薬物相互作用を学び、医療チームの一員として患者の治療の貢献できる看護師を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病の成り立ちと健康回復の促進	病態治療学Ⅰ	疾病の起こるメカニズムを学習し、その不調の出現を実践的に捉えることができるように重要な症状・兆候の病態生理と対処の原則を学ぶ。病態治療学Ⅰでは、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、骨・関節疾患の成り立ちと疾病回復過程、回復に必要な治療に関して学習する。	オムニバス方式
	病態治療学Ⅱ	疾病の起こるメカニズムを学習し、その不調の出現を実践的に捉えることができるように重要な症状・兆候の病態生理と対処の原則を学ぶ。病態治療学Ⅱでは、消化器疾患、内分泌・代謝系疾患、脳神経疾患、感覚器疾患、生殖系疾患の成り立ちと疾病回復過程、回復に必要な治療に関して学習する。	オムニバス方式
	臨床検査学	病気の診断、治療方針の決定、病態解析などの判断や評価には、臨床検査によって得られる客観的な情報が必須である。総論として、臨床検査とは何か、臨床検査の役割、臨床検査地の評価や注意点など、看護やリハビリの技術を実践するために必要な検査の基本知識を学ぶ。また、各論として、検体検査、偽生物検査、遺伝子検査、病理検査、生理機能検査、画像診断、超音波検査などの基本技術も学習する。これらの学習の中で検査時やその前後の援助技術と共に、いかにして検査時の苦痛を少なくし、より正確で安全な検査が実施できるのかについても考察する。	
専門基礎分野 健康の保持・増進と社会保障	公衆衛生学	社会の中で、疾病と健康を扱うために必要な理論と実践方法を学び、健康・疾病・障害と生活のかかわりについての基本的概念を学習する。さらに実践活動としての疾病コントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。	
	保健医療福祉行政論	保健医療の歴史と衛生行政・福祉行政に関する基本的な知識、現在の保健医療福祉行政の基本的な考え方と法的基盤、具体的な施策について学習する。また国および地方自治体の地域医療体制や医療計画の概要を学び、その課題について理解する。保健所および保健福祉センターにおける地域保健福祉活動の概要を学習するとともに行政として果たすべき役割に関して理解する。	
	疫学	疫学の定義を理解し、疫学の指標、疫学の研究方法、要因の捉え方と特性、因果関係の考え方について学ぶ。さらに疫学研究における誤差について理解した上で、既存の統計資料から疫学視点で分析する方法を学習するとともに、スクリーニングやサーベイランスの概念や方法について学ぶ。	
	社会保障論	社会保障制度の基礎的知識(目的・機能・範囲・歴史・組織・財政等)を学び、社会保障制度の概念と存在意義を理解する。また社会保障制度の具体例として年金保険制度を取り上げて、その意義や基本構造、国民年金と厚生年金の異同を学習する。	
	社会福祉論	現代社会における社会福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について学習する。さらに社会福祉形成の背景にある思想や哲学、倫理観の変化を学び、福祉の原理をめぐる理論と哲学を理解する。また社会福祉の実施過程は、人々のニーズの充足過程であり、社会福祉の実施方法とその原理について学び、社会福祉政策の構成要素ならびに関連政策との関係について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	健康の保持・増進と社会保障	医療安全学	看護ケアを実践する上で求められる患者及び医療職にとっての安全な医療の考え方を学習する。また、感染防御やリスクマネジメントなど看護職が保健医療チームの一員として取り組むべき医療安全対策について学習する。	
		看護学概論	看護学の基本的な概念である人間、健康、環境に関して、主要な看護理論や他の学問分野の理論を通して理解を深める。歴史的な背景を踏まえながら看護の担うべき役割や看護の専門性について学び、看護専門職者としての自己のあり方を見つめる姿勢を培う。また看護を受ける対象と看護職者との相互作用や構築すべき関係性について、基本的な理論を通して理解を深める。	
専門分野	看護の基本	看護コミュニケーション論	看護職者が対象との間に援助的人間関係を形成することは看護の基盤となるものである。援助的人間関係を形成するための手段としてのコミュニケーションスキルについて学習する。また、援助的人間関係の基盤となる学生自身の人間関係の形成について演習を通して振り返る。演習を通して他者に対する日頃の自己の在り方に向き合うことにより、看護における自己理解や自己対峙の必要性を理解する。	オムニバス方式
		看護展開論	看護を受ける対象のニーズや強みを的確に判断し、適切な看護実践を提供するために必要な批判的思考や分析的方法を習得し、問題解決法を活用しながら看護計画を立案できる過程を学ぶ。また実践した看護を振り返り、次の看護実践に活かすべき課題を見出す方法を学ぶ。	オムニバス方式
		看護倫理学	医療における倫理の基盤となる理論や宣言、綱領等について学習した上で、看護における倫理綱領やケア倫理について学習する。さらに看護専門職者が担う責務を学び、求められる倫理観について理解する。また事例を通して、臨床現場で直面する倫理的問題やジレンマを解決するために必要な方策を検討する。	
		アセスメントと看護技術Ⅰ (日常生活支援援助)	適切な看護実践を提供する上で基盤となるフィジカルアセスメント技術および看護援助技術を学ぶ。「アセスメントと看護技術Ⅰ」では、看護実践に欠かせないバイタルサインを把握するための技術とアセスメント方法、対象者の日常生活行動を支援する上で求められる技術とアセスメント方法を中心に学習する。	
		アセスメントと看護技術Ⅱ (治療過程支援援助)	適切な看護実践を提供する上で基盤となるフィジカルアセスメント技術および看護援助技術を学ぶ。「アセスメントと看護技術Ⅱ」では、主に治療過程の中で、看護職者に求められる看護技術と必要なアセスメント方法を学習する。	
		アセスメントと看護技術Ⅲ (療養生活支援援助)	適切な看護実践を提供する上で基盤となるフィジカルアセスメント技術および看護援助技術を学ぶ。「アセスメントと看護技術Ⅲ」では、療養生活において個々の対象者の健康状態を保持・増進するために求められる看護技術と必要なアセスメント方法を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	看護の基本	アセスメントと看護技術Ⅳ (健康の保持・増進援助)	適切な健康管理を対象が行えるような支援を提供できるために必要な理論と具体的な方法を学ぶ。また個人ならびに集団を対象とした健康相談の方法論を具体的な事例をもとに学習する。	オムニバス方式
		地域看護論	地域看護学の基本理念と目的について学習し、地域看護の活動史や地域看護活動の分野とその分野における機能を学ぶ。また地域看護学の基礎となる理論を学ぶとともに、地域社会の変化と健康課題について概観し、主に母子保健や高齢者保健に関する概論を学習する。	
		健康教育論	ヘルスプロモーションと健康教育の相互関係を理解し、ヘルスプロモーションの展開方法として、PRECEDE-PROCEDEモデルを学び、事例を用いて具体的な展開のあり方を学習する。さらにグループごとにテーマ設定し、ヘルスプロモーションにおける教育的支援と環境的支援の組み合わせを模擬的に展開し、評価を行うことで、より効果的なヘルスプロモーション活動を検討する。	オムニバス方式
		基礎看護学実習Ⅰ (地域における生活者の理解)	さまざまな発達段階や健康レベルにある人々とかかわることを通して、地域における人々の営みを理解する。また自分と異なる年代や生活背景等をもつ人々と自ら積極的にコミュニケーションを図る姿勢を培う。個々の学生が実習でかかわる対象者は、それぞれ異なる発達段階や健康レベルの人々であるが、こうした人々とかかわりからの学びを共有し合う力を培うことを目指し、最終の実習報告会を自らの学びを伝え、また他者の学びを自らの力として得ていける機会とする。	
		基礎看護学実習Ⅱ (対象理解)	健康上の問題により入院が必要となった対象者に積極的な関心を向けて、看護の提供者として対象者と関係性を築くことを目指す。また入院が対象者に及ぼす影響に着目しながら対象者を理解する。	
		基礎看護学実習Ⅲ (日常生活援助)	健康上の問題を抱えて入院生活を送っている人を受持ち、個々の対象のニーズを把握した上で看護過程を展開することで、適切な看護を提供できる力を培う。また保健医療チームの一員としての役割を理解し、自覚を持って行動する能力を獲得する。	
	看護実践の基盤	急性期看護論	急性期の概念や特徴を理解すると共に、手術や麻酔の侵襲を踏まえながら、手術を受ける人の身体的・精神的・社会的、スピリチュアル的側面への影響・特徴を理解する。術前から術後を通して、合併症予防、苦痛の緩和を行いながら、早期回復を促す援助や、家族を含めた退院後の生活への適応を促す援助について学ぶ。また、手術を受ける人の事例を通して、看護計画を作成し、アセスメント・看護判断・計画立案における留意点を学ぶ。さらに救急看護の役割および必要な援助について学習する。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
		慢性期看護論	生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象者とその家族について、その特徴や直面する問題等を含めて身体的・精神的・社会的、スピリチュアル的側面から全体的に理解する能力を培う。また、解決すべき健康問題に対して、どのような援助方法があるかを考察し、その人と家族のQOLがより高い状態を維持するためのケア方法について学習する。さらに対象者がよりよい状態を維持し社会の一員として復帰できるように保健医療チームにおける看護の役割について学習する。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 看護実践の基盤	終末期看護論	死に直面した人が持つ様々な問題や苦痛を理解し、安らかな死を迎えるために必要な看護援助について、心理学や社会学などの既習の知識を統合し、理解を深め、看護の姿勢を学習する。終末期を迎える対象者とその家族への具体的な看護を事例をもとに思考し、学んでいく。	オムニバス方式
	救急救命看護論	救急領域の看護の役割と機能を理解し、必要とされる基礎的な知識を学ぶ。救急領域に搬送された患者と家族の状態や状況を理解し、必要とされる看護を考え、実践につなぐ力を培う。救急領域における倫理的思考を身につけ、患者やその家族の尊厳や権利を擁護できる能力を習得する。	
	家族看護論	人には自分が生まれ育った家族があり、それを「家族」と認識しているが、家族のあり方は様々である。看護専門職者として人々の健康問題について考えるときに必要となる家族についての理論や見解を学習し、家族の発達過程や多様な家族のあり方を検討するとともに、家族を一つの単位として援助する基本的な考え方を習得する。さらに、家族生活と健康障害との関連を理解した上で、家族を看護ケアの対象として援助を行っていく方法について学習する。	オムニバス方式
	在宅看護論	在宅療養児・者とその家族の生活および健康課題について理解し、さらに在宅医療を支える保健医療福祉等の法律、制度、ケアシステムについて学ぶ。また、在宅看護の特徴と機能を理解するとともに在宅療養支援の方法、継続看護およびチームケアの重要性について学び、在宅ケアにおける看護職の役割について探究する。	オムニバス方式
	外来看護論	病気を抱えながら地域で生活している人々を外来診療の現場で支援するために必要な援助方法について学び、外来看護が担う機能と役割を理解する。さらに入院療養から在宅療養への移行や適切な再入院を円滑にするためのチーム医療における外来看護職者のはたらきを考察し、これからの外来到に求められる看護専門職者の役割について探究する姿勢を習得する。	オムニバス方式
	母性看護学	母性看護における基本理論、マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期・胎児及び新生児期)にある対象者の身体的・心理社会的変化の特性を理解し、性と生殖を母性看護の視点からとらえることができるよう、援助の視点と方法を学習する。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
	小児看護学	健康障害をもつ新生児期から青年期にある対象者とその家族について理解し、子どもの健康障害への対処や援助について学習する。子どもの権利を尊重し、子どものセルフケア能力を見極め、子どもや家族の力を引き出すことを基盤とした、子どもや家族に対する援助について、事例を通して思考を深める。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
	精神看護学	精神の健康障害の診断と治療、セルフケアを基本とした看護の援助方法について、能動的な学習方法を用いて学ぶ。また、精神の健康障害をもつ人の社会参加や人権擁護について検討するとともに、地域で支えるシステムについて考える。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護実践の基盤	老年看護学	老年期ならびに高齢者の生活や健康状態などの特徴を多面的に理解するとともに、老年看護において重要視される理論や概念について学習する。高齢者のQOLの維持・向上を目指し、高齢者特有の疾患と病態、看護について事例を通して理解する。健康障害をもつ高齢者とその家族が安心して療養生活を送れるために必要なヘルスアセスメントや看護面談技術、看護支援技術について学ぶ。	オムニバス方式 講義30時間 演習30時間
	公衆衛生看護学概論	地域看護学における公衆衛生看護学の位置づけを理解し、公衆衛生看護学の基本的な概念や特徴を学習する。さらに地域に生活する個人、家族、集団、組織の特性を学び、地域特性に応じた健康の保持増進・ヘルスプロモーション、疾病発生と悪化の予防を支援するための看護の基礎と地域ケアシステムについて学ぶ。具体的には感染症や生活習慣病、精神保健に関する公衆衛生看護活動の特性を学習するとともに、母子保健や高齢者保健に関する詳細な活動特性を学ぶ。	講義15時間 演習30時間
	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護に必要な地区活動の企画・実践・評価の過程について学習し、地域の健康問題をアセスメントする能力を習得する。人間の成長発達過程と地域の人々が生活する場とを統合的に理解し、人間の生涯を通じた保健活動や、疾病や障がいをもちながら生活する人々への保健活動に関する理論と知識、活動方法を学習する。家庭訪問技術や個別支援技術について必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。	講義15時間 演習30時間
	公衆衛生看護管理論	健康課題に対する組織的な取り組みや解決に向けた国および地方自治体の施策、健康に影響を与える環境を改善する方法について学習し、必要な地区組織やサービスについて考える。組織の基本方針や基本計画との整合性を図りながら必要とされる施策(事業)の立案方法を習得する。さらに地域の健康危機管理とその対策にかかわる看護専門職者の役割を学ぶ。	
専門分野	成人看護学実習 I (クリティカル)	健康障害をもち手術を受ける人を1~2名受け持ち、適切な関係を築きながら、麻酔や手術によるその人の身体・精神・社会・スピリチュアルな側面に及ぼす健康問題をアセスメントし、ケアプランを立案する。それに基づき、合併症予防、苦痛の緩和、早期回復を促す援助や家族を含めた退院後の生活への適応を促す援助について指導のもと実践・評価を行い、実際の看護の展開について学ぶ。また、実習を通して、主体的学習能力を養うと共に、保健医療チームの一員としての責任ある行動について学ぶ。	
	成人看護学実習 II (慢性期)	慢性疾患をもつ人との関わりを通して、長期的な健康障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面に及ぼす影響を理解するとともに、患者や家族が疾病をコントロールしながらよりよい生活を営めるセルフケア能力を獲得できる援助方法について学ぶ。また、社会資源の活用や患者とその家族を支える継続看護の必要性を理解し、保健医療チームの中での看護の役割についても理解を深める。	
	老年看護学実習	入院という生活環境にある高齢者と援助関係を構築しながら加齢変化と健康障害・生活障害の関連をアセスメントし、高齢者のセルフケア能力を助長する援助を学ぶ。退院後、在宅において高齢者とその家族が活用できる保健医療福祉サービスについての理解を深める。さらに退院後、高齢者が現状の健康レベルを維持しながら長期的に生活を送れることを支援する看護のあり方を学ぶとともに、生活支援における看護の専門性、他職種と協働・連携について学ぶ。	
	外来看護学実習	外来診療の場において、対象者の健康状態を的確に判断し、その場で適切な援助を提供できるための観察やかかわりについて学ぶ。外来受診後、地域の生活に戻る対象者が、適切な療養行動をとっていけるような支援方法を学ぶ。病気を抱えた対象者とその家族が自律的に生活するための看護相談のあり方や他職種との連携・協働について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	看護の 実践	母性看護学実習	周産期にある対象者を理解し、既習の母性看護学および関連領域の理論・知識・技術を用いて、対象者に必要な看護を展開できる。親子関係・家族関係を確立するために必要な看護を理解し、母性看護における看護専門職者の役割を理解できる。	
		小児看護学実習	健康障害をもつ子どもとその家族のアセスメントの実際について学習するとともに、それに基づいてケアの計画を立案し、子どもとその家族に対して必要な看護援助の実際について学ぶ。個々の発達段階と健康レベルに応じた援助ができるための基礎的能力を育むことを目指す。	
		精神看護学実習	精神の健康障害のために、生活を行う上で困難を抱えている人を対象に、セルフケアの視点からその人を包括的に捉え、内在する可能性を視野におきながら、その人のもつ能力の維持と向上を目指した援助のあり方を探究する。また、対象と関わるプロセスを通して自分自身を見つめながら、対象への関心を持ち続け、関係を築くことを目指す。	
		公衆衛生看護学実習	健康問題を生活者としての視点からとらえ、地域社会で生活している個人、家族、集団、地域を対象とした看護活動の展開方法を学ぶとともに、地域の保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割を理解する。地域のさまざまな組織・機関の保健師活動を通して、地域看護活動の基礎的な実践能力を習得する。	
		産業保健看護学実習	事業所で働く人々が安全で快適な労働生活を送ることができ、そのことが企業の活性化に役立つように健康面から支援する産業保健活動を理解する。事業場特有の労働環境がもたらす労働者の健康への影響を考えることができ、労働者の健康課題を理解する。労働者の健康の保持増進を支援する方法を学び、事業所における看護専門職者の役割を理解する。事業所という組織において健康の保持増進や疾病の予防を図るための活動のあり方を学ぶ。	
	看護の 統合	看護研究概論	看護研究の意義と必要性を理解し、研究を行う上でのテーマの決め方や目的の立て方、目的に応じた研究方法の選択について学習する。各研究方法の特徴を学び、研究デザインと方法との関係を理解する。研究論文における結果や考察の位置づけを理解し、看護実践に研究結果を活用する際の考え方を習得する。文献の種類や検索方法、クリティークの方法を学び、必要な研究論文を探索できる能力を培う。	
		看護管理学	患者に質の良い看護を提供するための組織の運営及び管理技法並びに管理者として期待されるリーダーシップの特性について学習する。またリーダーとして行動でき得る基礎的能力を習得するために、看護管理の実際について学ぶ。	
		チーム医療論Ⅰ	保健医療チームにおける各専門職の役割と機能を理解し、各々の技術と役割のもとに患者、家族、ボランティア等関連するすべての人々と協働することの重要性を理解する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	看護の統合	チーム医療論Ⅱ	理学療法士・作業療法士・臨床検査技師を目指す学生と共に事例をもとに必要とされる支援を検討し、それぞれの専門職者の専門性を尊重しながら看護の専門性を活かしたかかわりや担うべき役割を理解する。また看護の専門性に関して、他職種を理解を得るために何を伝え、何を実践すべきかを思考し、専門職者としての自覚と誇りを培う。	オムニバス方式
		国際看護学	文化圏の異なる国における看護を国事情(政治、経済を含む)、宗教、文化、教育制度、医療保険福祉制度、看護職の社会的役割(裁量権)などについて多角的に理解する。また、異なる文化圏の人々が有する健康観、死生観、家族関係、患者-医師関係、患者-看護師関係を理解する。	
		災害看護学	自然・人為・特殊災害等の発生時において必要な看護の知識と技術を学習する。また、災害による人々や社会への影響、とくに災害時に生じる健康や生活上の問題、人々の反応について理解し、看護の役割を探究する。	
		総合実習	各領域の看護学実習(成人看護学実習・老年看護学実習等)では、原則一人の患者を受け持ち看護を展開するため、個々の学生が実習を通して経験できる看護実践は限られてくる。こうした状況をふまえ、個々の学生がこれまでの実習の中で達成できなかった課題(セルフケア能力が高い患者を受け持つ経験がなく、こうした患者に求められる看護を実践する機会がなかった等)を明らかにして、その課題の達成に向けて実習を展開する。この実習により看護実践能力の基盤となる基礎力を確かなものとする。	
		アドバンス実習	総合実習で看護実践能力の基礎力を確かなものとした上で、さらに学生自らが高めたい看護実践のテーマを見出し、そのテーマをもとに自らが実習計画を立てる。看護実践への自律的な取り組みと卒業後の学習への自発性を培うために学生自身が実習の成果に責任を持つ姿勢を獲得することを目指す。	